

国語科 学習指導案

1 対象・日時 2年A組 令和3年2月19日（金）2校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使っている。	①「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 ②「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から材料を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。（第3学年「書くこと」ア）	①今までの学習を生かして互いのレポートを読み合い、粘り強く自分のレポートのよい点や改善点を見いだそうとしている。

3 単元「TOFYレポートブラッシュアップ！ ～レポートを互いに読み合い、自分の文章に生かせる視点をもとよう～」について

本校の教育活動の特色の一つである総合的な学習の時間（TOFY）において、2年生の学年末である2月は、今までの個人研究の成果を中間レポートにまとめ、3月の中間発表会に向けての準備段階にある。執筆要項はあるものの、生徒は基本的に自分のレポートしか読んでいない。そのため、どのように改善していけばよいのか考えられず、教師に指摘されたことを言われたとおりに修正するだけになってしまう姿が毎年多く見られる。今の2年生も例外ではなく、既習単元を振り返ってみても、他者から指摘された際には訂正できるが、得た気づきを次の自分の文章に生かすことができず、同じようなことの繰り返しとなってしまうことが課題である。その原因として、自分の文章のよい点や改善点を見いだせていないため、他者からの指摘をそのまま受け取って直すことしかできないのではないかと考えた。また、検討なくそのまま受け取ることで、改善するどころか改善になってしまう場合もあるかもしれない。その状況を何とか打破できないかと思い、本単元の構想を始めた。

TOFYはこの中間レポートの完成で終わるわけではもちろんなく、研究は3年生まで続いていく。そのため、今回の単元で見いだした、自分の文章のよい点や改善点を直接つなげやすいということもあり、学習課題を「TOFY レポートブラッシュアップ」とした。また、レポートを読む相手は必ずしも自分と同じ情報をもっているわけではない。そのためレポートを共有していく学習過程において、伝えたいことを明確にするために、題材の調査に立ち戻ったり、半年後の成果発表に向けて見通しを再検討したりする中で、関連してくる場面が想像されるので、第3学年の「書くこと」ア「目的や意図に応じて、社会生活の中から材料を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。」を取り入れた。

4 生徒の学びの履歴

2年生の「読むこと」の学習において、文章と図表の関係を踏まえて内容を解釈することを行っている。図表が文章の根拠となり、説得力をもたせていたり、図式化することで視覚的に捉えやすくなっていたり、文章では述べられていない部分を補完したりして、分かりやすさを生んでいることを学んでいる。しかしながら、「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ【中学校編】」において、全国の中学生は、「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」に課題があると分析されているように、本校の生徒も、グラフや表から情報を整理することはできるが、そこから自分の考えを導き出し分かりやすく書くことには課題がある。

また、1年生の学習で、自分の書いた文章を表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて整えることは学習している。しかし、定着までにはいたっておらず、前述したような課題が残っている。なぜ伝わりにくいのかということは、書き手本人では気づきにくい部分があるため、先輩や同様のレポートのよさや改善を図るための視点を交流し、その視点をもった上で、自分のレポートを振り返らせ、よりよくさせていきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（5時間扱い）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1 2	<p>知① 情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使っている。(○)</p> <p>思② 目的や意図に応じて、社会生活の中から材料を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認】 C：先輩のレポートの変更前後を比較し、どちらが効果的か、それはなぜかを考えるように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 C：先輩のレポートの見出しに着目させ、伝えたいことを支える情報があるか、適切かどうかを考えるように促す。</p>
2	3 4	<p>【Bと判断する状況の例】</p> <p>知① 自分や他者のレポートにおいて、情報の整理の仕方や示し方が読み手にとって適切かどうか検討して、判断理由をコメントで説明している。(◎)</p> <p>思① 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(○)</p> <p>【Bと判断する状況の例】</p> <p>態① 他者からのコメントへの返信を通して、自分のレポートのよい点や改善点を見いだそうとしている。(◎)</p>	<p>【中間レポートのコメントの分析】 C：文献調査やアンケート調査、インタビュー調査などで得た情報の整理の仕方や示し方について、前時の気付きや改善の視点を参考にしながら、他の方法と比較するように促す。</p> <p>【他者へのコメントの確認】 C：自分の文章のよさや改善点の視点をもつために、他者のコメントを全体で取り上げて指摘したり、他者のレポートやコメントを参考にするように促したりする。</p> <p>【コメントの記述の分析】 C：前時の話合いや、先輩や他者のレポートの効果的な書き方を想起させ、自分の文章ではどのように生かせるのか考えるように促す。</p>
3	5	<p>【Bと判断する状況の例】</p> <p>思① 他者からのコメントを踏まえ、自分のレポートのよい点や改善点を整理し、意図をもって加筆・修正している。(◎)</p>	<p>【加筆・修正した文章とコメントの記述の分析】 C：他者からのコメントからどのように判断したのかを考えるように促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 学習プランと学びの手引きで本単元の見通しをもつ。 本単元の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】 TOFYレポートブラッシュアップ！ ～レポートを互いに読み合い、自分の文章に生かせる視点をもとう～</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ウェブ上で使用できる「文章診断ツール」やWordの校閲機能を使い、自分の文章の傾向を把握し、校正が必要な部分は直す。 一学年上の先輩のTOFY中間レポートと、TOFY本レポートを比較して読み、気付き（変更された部分とその効果）を本レポートの余白に記入する。 書いたものを全体で交流し、自分では気が付かなかったことは、先輩の本レポートに赤で加筆していく。 同じ部分で異なる意見や評価が出た際には、効果や不十分な点について説明し合う。 具体的な部分を全体で説明し合いながら、改善の視点を共有する。（情報の収集、文章の構成、説明や具体例、表現の技法、語句の用法、情報の表し方など） 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プランと学びの手引きを示しながら、学習の流れと育成したい資質・能力を確認する。 <p>※自分の中間レポートのデータを準備しておくことを事前に伝えておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> AI技術を用いた文章診断ツールなどの利用により、第三者的に文を見て整える視点をもたせるとともに自分の文章の傾向を確認させる。 いくつかの気付きを全体で確認し、どのように書くのかを押さえる。 情報の表し方については、同じ情報でも、整理の仕方や説明の仕方が異なることで分かりやすさや印象が変わることを取り上げて確認する。 他のクラスでしか出ていない気付きについては適宜紹介していく。 全体共有しながら、出てきた視点はPowerPointで可視化して示し、いつでも確認できるようにする。 2時間目の終わりで、仮提出したTOFYの中間レポートをTeamsにアップロードするとともに、紙でも印刷して準備するように伝える。 	1 2
<ul style="list-style-type: none"> 前時に整理した視点の中で、自分のレポートで特に意識したい視点に順位付けをし、三つに絞る。 三つの視点を中心に、改善が必要だと感じた部分にマーカーを引き、校閲機能を活用してどのような変更が必要かをコメントで書き残す。 4人班で文章を読み合い、他者の文章のよい点や改善点を、校閲機能を活用してコメントを書き残す。 <p>※TOFYレポートの執筆要項や講座担当に添削してもらったものを手元に用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> コメントが書かれた部分について4人で共有する。 書き手は説明を受けながら、コメントの返信で自分の考えを記録に残す。 <p>※他者の考えを聞くだけでなく、自分が書いていない部分についても検討し、話し合う中で出てきた新しい気付きはさらにコメントで書き残す。</p> <p>※自分が工夫していたところにコメントが無かった場合は、コメントを求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変容を可視化し、自分の文章のよさや改善点を見だしやすくするために、視点を絞らせる。 直接の加筆・修正はさせず、変更予定を簡潔に書くように指示する。 書き手がコメントを書いている部分だけではなく、その他の部分でも具体的な表現を取り上げながら、どのような理由で効果的なのか、どのように書けばさらに効果的なのかを建設的に書くように促す。 共有の際に、相手の書く意欲が高まるコメントや発言があった場合は全体で取り上げる。 改善部分に対する指摘ばかりではなく、積極的に効果的な表現にコメントを残すように促す。 全てを他者のコメント通りに加筆・修正するのではなく、書き手が一旦受け止めた上で検討することが大切であることを確認する。 	3 4
<ul style="list-style-type: none"> 他者のコメントを踏まえてレポートの加筆・修正を行い、その理由をコメントに記入する。 単元の振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【振り返りの視点】 ・今回見いだしたことを、次に文章を書く際にどう生かしていけるか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 加筆は赤、削除は取り消し線を用いて、検討結果や変更理由をコメントで書くことを全体で確認する。 先輩や他者のレポートを共有したことで見えてきた、自分の文章のよさや課題の傾向について具体的に触れながら、次の学習につなげていくための振り返りをさせる。 	5

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

共有で得た他者からの助言を基に自分の文章のよさや改善点を見だし、意欲的に中間レポートを改善したり研究の見通しを再検討したりする姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

2年生の指導事項では1年生の学習を踏まえ、情報を整理するために、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことが求められる。そこで本単元では、レポート項目の一つである「進捗状況」において、様々な調査で得た情報の整理の仕方や説明の仕方が適切かどうかを検討させた。同じ情報であっても、手順や時間経過にそって順序立てたり、見出しを工夫して読み手を惹きつけたり、項目を立てて整理したり、何かと比較したりと、様々な方法がある。生徒はこれまでの研究で、文献やアンケート、インタビュー、実験などから多くの情報を入手している。第1次に先輩のレポートの変化に気付かせ、全体でその効果を検討することで、目的や相手などによってふさわしい説明の仕方が変わってくることのイメージをもたせた後に、集めた多くの情報をどのように説明するか、そして説明の仕方が目的や相手にふさわしいか、複雑な関係の把握や自分の思考の明確化に効果的かどうかを客観的な視点で検討させた。また、検討することで情報の信頼性や信憑性について再確認し、不十分であれば情報収集を再検討すべきだと本人が気付けるようにした。評価については、他者のレポートでその効果や改善理由を説明できていたらB評価とした。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

本単元では、「自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと」を目標としている。しかしながら書くことは、読み手からの直接の反応を得ることが難しく、自分の中でしか書くことと読むことの往還が進んでいかない場合が多い。そのため、ときに主観的・独善的になってしまい、伝えたいことが読み手には十分に伝わらないこともままあるのが事実で、自分一人ではよい点や改善点は見いだしにくい。誤字や脱字などの表記や、一文の長さによる分かりにくさなども自分では気が付きにくい。そこで、本単元ではWordの校閲機能や「文体診断ロゴーン」(<http://logoon.org/>)や「帯3」(<http://kotoba.nuee.nagoya-u.ac.jp/sc/obi3/>)を、自分の文章の傾向に気付くための手段として導入の段階で活用した。文章のよい点や改善点を見いだすためには、他者との比較や他者からの助言が有効であり、指導要領にも「読み手からの助言を踏まえて」客観的に見いだすことが求められている。そこで本単元では、他者のレポートを読み、表現の効果や改善案を考える時間を十分に保証した。他者のレポートを読み、それに対する様々な評価を見ることで、多様な視点や気付きを知り、自分の文章に生かすことができると考えたからである。そうすることで、分かりやすさや伝わりやすさはどこからくるのか、どのように改善していけばよいのかということを自分自身で考える習慣も身に付けさせたい。評価については、コメントや話し合いを通して得た他者からの助言を踏まえ、見いだした自分のレポートのよい点を整理した上で、レポートを加筆・修正し、その変更理由や変えることによる効果をコメントで記述したものを見取っていった。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

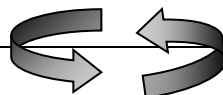
本単元では、自分のレポートのよい点や改善点を見いだすことに重点を置いたので、他者からの助言を踏まえ、自分のレポートを客観的に振り返る際に粘り強さを発揮させたいと考えた。しかし、最初から自分のレポートのよさや改善点はなかなか気が付きにくい。そこで、先輩のレポートを読み、気付きを全体で確認していくことで視点をもたせ、その上で自分のレポートを読ませコメントを書かせた。その後さらに、他者のレポートやコメントを読み、助言をもらった後に再度自分のレポートを読み直させ改善に当たらせた。ただ他者からの助言通りに訂正するだけで終わるのではなく、どのように判断したのかということをもコメントで書かせ、その記述を見取っていった。

○「考えるための技法」を用いた言語活動の充実

他者のレポートと自分のレポートを比較して読むことで、共通する視点をもって自分の文章に生かす。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。（2年 知識及び技能 (2)イ）
- ・表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。（2年 書くこと オ）
- ・目的や意図に応じて、社会生活の中から材料を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。（3年 書くこと ア）



【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・本単元で見いだした自分の文章のよい点や改善点を生かし、自分の考えが伝わるように表現を工夫して中間レポートを改善したり、最終レポートを書いたりすることができるようになる。